

こども教育会議 会議録

<p>日時 平成27年8月19日(水) 13:30~14:40</p>	<p>場所 武雄市役所(4階) 全員協議会室</p>	<p>出席 小松市長 浦郷教育長、 教育委員(諸石、古場、前田、河内、岡本、森、犬走、奥川、貝原) 八田東川登小学校長 中野企画財政部長、諸岡こども教育部理事 スマイル学習課(徳永課長※、諸岡主幹、小柳) 学校教育課(徳永課長※) 教育政策課(牟田課長、樋渡係長、野口係長) 企画課(古賀課長、松尾係長、富永、岡本)</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第5回こども教育会議 (官民一体型学校 武雄花まる学園について)</p>

議事録

内容

1 開会(進行:中野企画財政部長)

2 議事(議事進行:小松市長)

(1) 意見交換 テーマ「官民一体型学校 武雄花まる学園について」

⇒冒頭に、スマイル学習課から、官民一体型学校武雄花まる学園について、現状、課題等について説明を行った。

⇒次に、実施校である東川登小学校の八田校長から、実施校としての取り組み、効果、課題等について述べ、その後、出席者で意見交換を行った。

<出席者からの主な意見>

- ・実施校の先生に、官民一体型学校の効果を8点聞いた。
 - ①こどもたちが積極的になってきた。 ②計算力がついた。
 - ③ノートの記録が早くなった。 ④学級の雰囲気よくなってきた。
 - ⑤大きな声が出せるようになった。 ⑥切り替えの早さが授業にも活かされている。
 - ⑦自分に勝つという意識が根付いてきた。 ⑧高学年のリーダー性が高まってきた。
- ・課題としては、高学年以外のリーダー性をどう考えていくか。やりたくないといっている子どもへの対応、フォローをどうするか。
- ・官民一体型学校の取り組みについて、保護者や地域の人々の理解が不足している。説明すると理解してもらえないが、その機会が少ない。
- ・保護者への説明が足りない。保護者が関心をもって参加できるシステムの構築が必要。現在の実施校の取り組みを動画配信し、未実施校の保護者や子供たちが見てわかる方法が必要ではないか。
- ・武雄の教育の紹介動画を作成し、市内外に発信したらどうか。
- ・授業参観を兼ねた花まる学習のお試しがあったら、保護者の関心が生まれ、全学校取り組む雰囲気になるのではないか。
- ・実施にあたっては、地域と学校の連携、地域の協力は絶対必要である。
- ・地域協議会の協力者を集めていくというのが今後は課題。固定的な人だけでなく、市民総ぐるみで取り組んでいく姿勢をつくっていく必要がある。
- ・今後の課題はサポーターの登録者を増やすこと。メンバーが固定化されてしまっている。
- ・この取り組みを行うには地域の協力が必要だが、地域が弱体化(婦人会、老人会は退会が続き、こども

クラブは入会者が少ない) している現状では、決めきれないとの区長の声もある。

- 地域のサポーターからは、花まる学習をきっかけに学校が開かれ、地域の人の認識が変わったという点で効果があったと聞いた。区長会を中心に、地域のこどもは地域で育てようと皆が協力したが、それでもまだ住民への周知が充分ではないと聞いた。
- サポーターと学校の意見交換会を行い、共通認識をもって取り組んでいく必要がある。
- 地域との連携で様々な課題はあるとはいえ、自分の学校についてこれだけ意識を高めてもらっているのは何十年ぶりで、わがまちの学校という意識は以前よりも高まっている。いろいろな面で学校が強くなっていく、地域に支えてもらうという体制につながっていると思う。
- 地域の協力もちろん必要だが、現場の先生方が大事。最前線の先生の忌憚のない声を聞く、検証することをしないと、継続できないのではないかな。
- 教職員の負担の問題がある。
- 新しい取り組みで、興味関心が高まっているが、主役は子どもということを冷静にみないといけない。学校教育は30人の子がいたら30人が個々にそれぞれの性格があり、それぞれの個を活かしながら活動に参加する必要があるのでは。
- 花まる学習を経験してきた子どもと、していない子供が中学校で一緒になった場合に、格差がでてこないか心配という声がある。
- 小学校が義務教育である以上は、なるべく早く全部の小学校に取り入れていくべきではないか。
- 現在は、講師を花まる学習会から2名派遣いただいているが、先進校の武内小、東川登小のやり方を、未実施校の先生方が視察すれば、全学校に花まる学習会からの講師がいなくても実施は可能ではないか。
- 主要な部分については、花まる学習会のカリキュラムに沿って実施しながらも、学校の実情に応じて、各学校の特色を活かした花まるタイム、青空教室をしてもいいのではないかな。これまで実施してきた各学校モジュール授業もあるので、各学校の実情や特色を活かした取り組みの方が、先生が取り組みやすいのではないかな。
- 教育で移住するほどの関心のある取り組みである。教育内容の充実をさせることと、教育移住による武雄市の活性化、両面考えていかなければならない。

<市長の発言>

- 官民一体は「地域一体」のこと。東川登では官民の民は「町民の民」と紹介のあったとおり、地域も関わってこどもを育てていこうという点が本質の一つである。
- 一番大事なのは武雄で生まれて育てている子どもたちである。さらに、教育が魅力的であるということで、移住で来られている。教育移住についても、地域創生の中で大事にしたい。
- 横への広がり（他の学校への広がり）で重要になってくるのは各学校の独自性である。花まる学習の一定水準の取り組みを実施しながら、それぞれの学校の独自性を持たせ、伸ばしていくという観点が大事ではないかな。
- 縦への広がりとして、強制ではなく、やりたいという声、ノウハウを活用したいという声があれば、未就学児への拡大を視野に対応していきたい。
- 官民一体型学校の取り組みについて、複数の委員から指摘があった広報・周知不足の点については、今後の課題である。
- 教育移住は市長部局、教育委員会はカリキュラム、教育委員は現場の声の聴取など、それぞれが役割をもって進んでいきたい。

(2) 次回開催について(予定)

- ・開催日 : 9月24日(木) 13:30~14:30
- ・テーマ : 教育大綱(案)について意見交換

3 その他

- ・なし

4 閉会(進行: 中野企画財政部長)